

## 病害虫発生予察特殊報第2号

病 名 トルコギキョウえそ輪紋病(仮称)

病原ウイルス *Iris yellow spot virus (IYSV)*

### 1 発生経過

平成 14 年 5 月下旬、北信地区で栽培されているトルコギキョウで、下位～中位葉が黄化する、またはえそ斑点や大型のえそ輪紋を生じる障害が発生した。病徴からトスポウイルス属のウイルスによる病害が疑われたため、野菜花き試験場において簡易検定を行ったところ TSWV および INSV は陰性であった。そこで、静岡県農業試験場病害虫部に RT-PCR による検定を依頼したところ、本ウイルスによる病害であることが明らかとなった。

本ウイルスによる病害は平成 11 年に千葉県のアルストロメリアで初確認され、その後は佐賀県、千葉県、静岡県、大分県のトルコギキョウで確認されている。また、海外ではイスラエルとオランダでトルコギキョウに、ブラジルやチェニジアではタマネギで本ウイルスによる病害の発生が報告されている。

### 2 病原ウイルスと本病の病徴

本ウイルスは TSWV や INSV と同じトスポウイルスに属する。これまでに、寄主植物としてトルコギキョウ、ダッチアイリス、タマネギ、リーキ、アルストロメリアが報告されている。

本ウイルスはネギアザミウマによって媒介され、ミカンキイロアザミウマによっては媒介されない。

本ウイルスに感染すると生育初期から発病し、葉にえそ斑点や大型のえそ輪紋等を生じる。生育後期には生長点付近の葉が小型化し、その後生育が抑制される場合もある。

本病の病徴は TSWV による黄化えそ病や INSV によるえそ斑紋病の病徴と酷似しており、病徴による区別は困難である。

### 3 防除対策

- (1) ほ場内に本ウイルスに感染した植物を持ち込まない。
- (2) 施設の開口部に寒冷紗を張り、アザミウマ類の侵入を防ぐ。
- (3) 本ウイルスを媒介するアザミウマ類の防除を徹底する。
- (4) 発病株は伝染源となるので、見つけしだい抜き取り、施設外へ持ち出して土中に埋める等適切に処分する。
- (5) 施設内の不要な花き類は、アザミウマ類の好適な繁殖場所になるので必ず除去する。
- (6) 施設内や周辺の雑草は、本ウイルス病の伝染源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、除草を徹底する。

### 4 その他

トスポウイルス属のウイルス (TSWV、INSV、IYSV) による病害は症状が類似しているため、病徴により区別することは困難なので、診断については病害虫防除所あるいは最寄りの農業改良普及センターへ相談する。

# トルコギキョウえそ輪紋病(仮称)病徴写真

(写真提供:長野県野菜花き試験場病害虫土壤肥料部)

本病は *Iris yellow spot virus* (IYSV) によるウイルス病で、以下のような病徴を示す。



写真1:生長点付近の黄化



写真2:えそ斑点、えそ輪紋症状



写真3:えそ輪紋症状